

山梨県立あけぼの支援学校

令和7年度 研究のまとめ



研究テーマ

「指導に生かせる

よりよい個別の指導計画の検討」

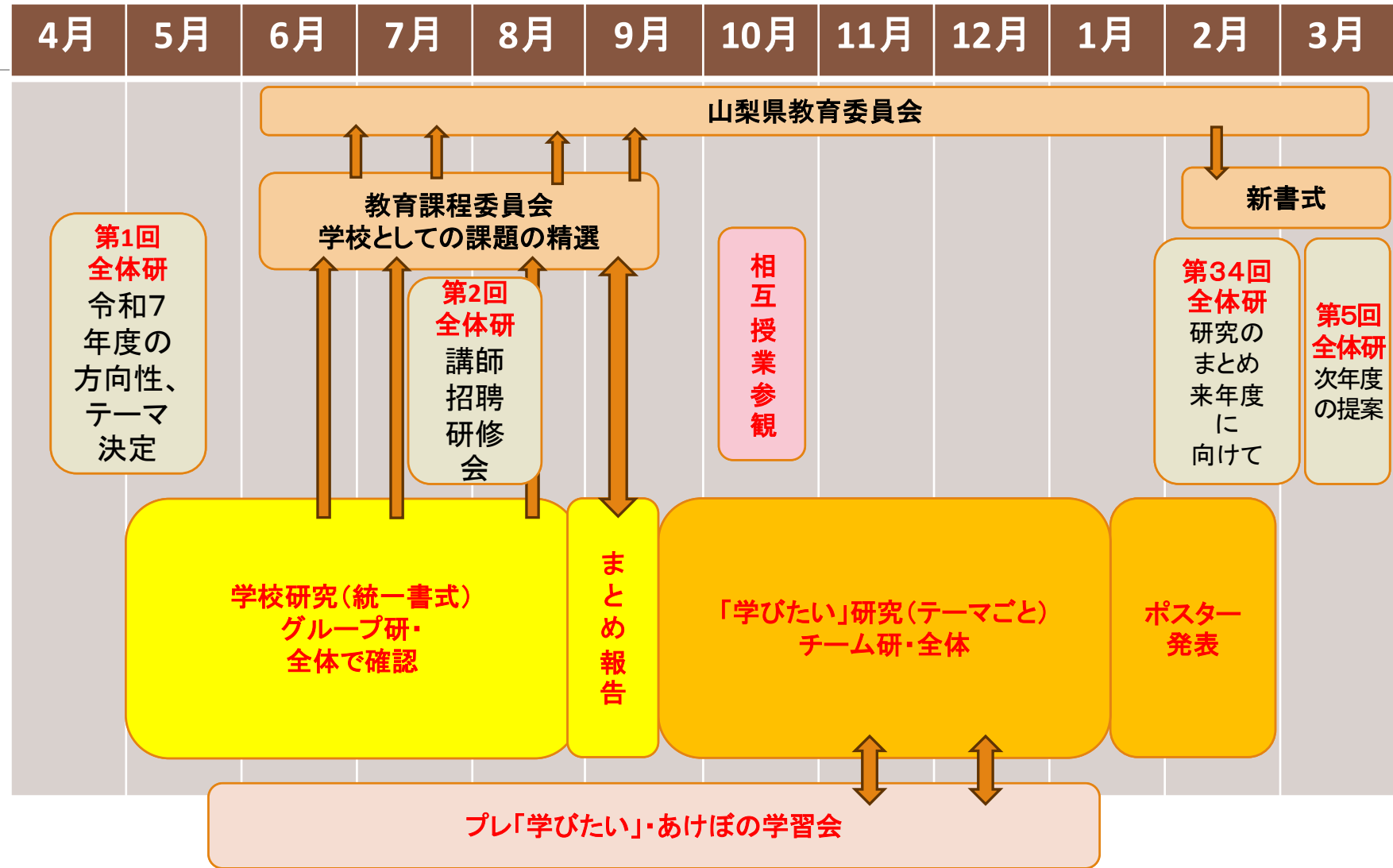
I 令和8年度の統一書式を活用するために

- ・来年度より山梨県で導入される予定の個別の指導計画について肢体不自由特別支援学校の特性に合わせて課題を探り、改善点を検討。

II チームで高めるテーマ研究

- ・業務の多忙化の中での、教師自身の主体的な学びができるように、自分達の「学びたい」を見つめ直し、テーマごとに学び合い、教師力の向上を図る。

令和7年度の1年の流れ



研究の実践 I

I 令和8年度の統一書式を活用するために

- ・ 令和8年度の統一書式を本校の児童生徒で試行、書式の改善点をもとに、《あけぼの版》を作成。
- ・ 書式の運用に当たっての課題、校内での確認及び検討事項を整理した。

研究の実践

令和8年度の統一書式を活用するために 書式の検討 準ずる・下学年の教育課程

あけぼの版

【小学部】視覚障害、聴覚障害、

令和 年度 個別の指導計画

教科等	学部	学年	氏名	記入者	
年間指導目標 [知] [思] [学]					
評価	観点	前期	後期	年度末	評定
	知識・技能				
	思考・判断・表現				
	主体的に取り組む態度				
定期試験(点)					

期		予定時数	実施時数
単元名			
目標及び内容	[知] [思] [学]		
観点	観点別学習状況の評価(評価規準)		評価
知識・技能			
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
備考欄	指導上の留意点(気管切開等、年度途中の実態の変化等)を記入する。		
単元名		予定時数	実施時数
目標及び内容	[知] [思] [学]		
観点	観点別学習状況の評価(評価規準)		評価
知識・技能			
思考・判断・表現			
主体的に学習に取り組む態度			
引継事項	通知表に記載しないこと(学習をしてもまだ難しいことや習得につながりにくいことなど)を学びの履歴として記入する		

- ・3学期制から2期制

- ・[知][思][学]の3観点の欄

- ・定期テストの得点を書く欄

- ・一つの単元で複数の評価項目はよいのか

- ・評価の根拠(所見)を書くこと、課題を書くこと

- ・「～の条件のなかで〇〇ができた」という書き方が必要のため文字数を確保

研究の実践

令和8年度の統一書式を活用するために 書式の検討 知的障害代替の教育課程

あけぼの版

【学部共通】知的障害①（各教科等）

令和 年度 個別の指導計画

教科等	学部	学年	氏名	記入者
年間指導目標				
[知] [思] [学]				
評価				
前期	知識・技能			
	思考・判断・表現			
	主体的に取り組む態度			
後期	知識・技能			
	思考・判断・表現			
	主体的に取り組む態度			
年間	知識・技能			
	思考・判断・表現			
	主体的に取り組む態度			
備考欄	指導上の留意点（気管切開等、年度途中の実態の変化等）を記入する。			
期	対応する教科等及び段階			
単元名	予定时数	実施時数		
目標	[知] [思] [主] 100字	内容 手立て	200字	
観点	観点別学習状況の評価（評価規準）			評価
知識・技能				
思考・判断・表現				
主体的に学習に取り組む態度				
引継事項	通知表に記載しないこと（学習をしてもまだ難しいことや習得につながりにくいことなど）を学びの履歴として記入する			

知的①シート

あけぼの版

【学部共通】知的障害②

令和 年度 個別の指導計画

教科等	学部	学年	氏名	記入者
年間指導目標				
[知] [思] [学]				
評価				
前期	[知] [思] [主]			
後期	[知] [思] [主]			
年間	[知] [思] [主]			
備考欄	指導上の留意点（気管切開等、年度途中の実態の変化等）を記入する。			
期	予定时数	実施時数		
単元名	目標		内容・手立て	
	100字	200字		
評価				
	300字			
引継事項	通知表に記載しないこと（学習をしてもまだ難しいことや習得につながりにくいことなど）を学びの履歴として記入する			
単元名	目標	内容・手立て		
評価				

知的②シート

研究の実践

Ⅰ 令和8年度の統一書式を活用するために 書式の検討 知的障害代替の教育課程

課題点

- ・学期でなく、前期後期の枠
- ・3観点の欄
- ・単元の前期と後期を分けてほしい。
- ・予定時数は、必要か(特に小中は必要ないのではないか)
- ・単元の数は多くなる。(指導の積み重ねはしやすい)
- ・文字数(「～の条件のなかで〇〇ができた」という書き方が必要のため)
- ・目標と内容が一つの枠では書きにくい。知的②のように、目標と内容と手立てで枠を分けてほしい。
- ・予定時数を入れる必要性があるか。
- ・所見と課題を書く欄が必要(ないと別の様式が必要となり2度手間になる)

肢体不自由に対する指導のための根幹となる手立ての記述

研究の実践

令和8年度の統一書式を活用するために 書式の検討 自立活動を主とする教育課程

あけぼの版

【学部共通】自立活動

令和 年度 個別の指導計画（自立活動）

学部	学年	氏名	記入者		
実践課題から「抽出された中心課題」 <small>・設定理由については、本校の書式を使用する。（正式な書式に合わせて本校の書式は改訂する。カード分類を行い、課題期間満了を個々の課題から中心の課題に定める関係性をわかりやすいように整理する。設定の理由については短く端的に書く。）</small>					
指導目標		予定時数	実施時数		
指導目標を達成するために必要な項目選定					
※□に✓を入力					
1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
<input type="checkbox"/> (1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。 <input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関すること。 <input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と変遷に関すること。 <input type="checkbox"/> (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> (5)障害状態の維持・改善に関すること。	<input type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関すること。 <input type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関すること。 <input type="checkbox"/> (3)障害による学習上の生活上の困難を改善・克服する事案に関すること。 <input type="checkbox"/> (4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> (5)障害状態の維持・改善に関すること。	<input type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関すること。 <input type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関すること。 <input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関すること。 <input type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関すること。 <input type="checkbox"/> (5)認知や行動の学習が欠ける概念の形成に関すること。	<input type="checkbox"/> (1)感受する感覚の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること。 <input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代用手段の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> (4)感覚を総合的に活用し、生活環境の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 <input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と内発な運行に関すること。	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 <input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。 <input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関すること。 <input type="checkbox"/> (4)身体移動能力に関すること。 <input type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること。	<input type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 <input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関すること。 <input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関すること。 <input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
関連付けた項目	自立活動 指導内容Ⅰ タブを3つ選択できるよ うに	自立活動 指導内容Ⅱ	自立活動 指導内容Ⅲ	自立活動 指導内容Ⅳ	
選定した項目を関連付け設定した指導目標 <small>指導内容がわかるように端的に書く。（例を作成し、参照する）</small>	Ⅰ- (1) 呼吸、姿勢に関すること	Ⅱ- (1) 座位姿勢での活動 Ⅱ- (2) 上肢の練習 Ⅱ- (3) 深い呼吸	Ⅲ- (1) 感触への気付き Ⅲ- (2) 視覚、遠視 Ⅲ- (3) 聴覚、終わりに気付き Ⅲ- (4) 要求の表現 Ⅲ- (5) スイッチ、タブレット	Ⅳ- (1) 季節の風物、自然 Ⅳ- (2) 温度を感じる	
備考欄	指導上の留意点、気管切開など、途中の変更点や実態の変化がかけるとよい。				

自立活動の全体像

あけぼの版

【学部共通】自立活動主体

令和 年度 個別の指導計画

学部	学年	氏名	記入者
年間指導目標			
評価			
前期			
後期			
年間			
備考欄	指導上の留意点（気管切開等、年度途中の実態の変化等）を記入する。		
教科等	目標	内容・手立て	
自立活動 指導目標 I II III IVより選択	()		
予定時数	実施時数	評価	
引継事項	通知表に記載しないこと（学習をしてもまだ難しいことや習得につながりにくいことなど）を学びの履歴として記入する		
教科等	目標	内容・手立て	
自立活動 指導目標 I II III IVより選択	()		
予定時数	実施時数	評価	

単元ごとの計画

研究の実践

令和8年度の統一書式を活用するために 書式の検討 自立活動（を主とする教育課程）

課題点

・目標Ⅰ 目標Ⅱ 目標Ⅲごとにシートを分けて設定してほしい。（自立活動主体の計画については、全てが自立活動になるため、多すぎて書くことも見ることも難しい）

改善案①→指導目標1つで1シートにて行う。（全体的に縦長になってしまい、書きづらく読みづらい。）

改善案②→「指導目標」を「年間指導目標」に変更。「指導内容」を「指導目標Ⅰ」等に変更する。・シート1枚に収まるシンプルな構成になっていて良い。評価等は縦長になる。

改善案②Ⅱ「指導目標」を「年間指導目標」に変更。「指導内容」を「指導目標Ⅰ」指導内容は単元見出し等に変更する。単元シートに内容、手立て等詳細を書く。シート1枚に収まるシンプルな構成になっていて良い。単元シートに書くことで指導が具体的に書くことができ積み重ねられる。

・内容は見出し程度にすることで全体像を把握しやすい。見出しが単元のもとになる。大切な点がわかりやすい。具体的な内容は、単元に書いていく。見出しが1-1呼吸に関すること、1-2覚醒に関する事などにしたらどうか。

見出しについては、指導例集などを参考に今後蓄積していけるとよい。

備考欄のように指導上の留意点、気管切開、途中の変更点、実態の変化など（単元にも所見および備考欄）がかけるとわかりやすい。

自立活動を指導目標ごとに単元での記述による系統的な指導

研究の実践 I

講師招聘研修会

・すでに県統一書式に向け先進的に取り組んでこられた長崎県の個別の指導計画のあり方についての考え方及び具体的な配慮や課題への改善方法などを含めて御指導いただいた。

《長崎県立虹の原特別支援学校 分藤賢之校長》

個別の指導計画のあり方について

～児童生徒一人一人の学びと、学校としての教育課程との接続～

《長崎県立鶴南特別支援学校 廣瀬雅次郎教頭》

長崎県における個別の指導指導計画の作成・評価等 に関する取組について

校内検討事項

【単元評価から学期/年間の評価を行う規準】

＜評価の在り方＞

- ・「(環境設定)と(支援内容・頻度)を用いて(学習活動)することにより、(能力の変化または機能の変化)があり、(目標)を達成することができた。」という要素を含めて個別の指導計画が記載されるようにする。
- ・自立活動について、現在の校内の課題設定理由のシート、課題関連図を使用して中心的な課題に基づく指導を行う。
- ・評価の判断基準についての整理・確認。

校内検討事項（来年度）

- ・集団授業計画などとのスムーズなつながり(単元の設定など)
- ・記入例がほしい。
- ・今後、過去の各教科、自立活動の単元がわかるものがあるとよい。
→今後、新書式での取り組みを蓄積しながら整理が必要。

学習指導要領を規準にした個々の基準の目安があるとよい。

→県教育委員会に希望していく。

研究の実践 II

II チームで高めるテーマ研究

はじめに、教師達で集まり、自分達の研究したいことをブレインストーミングし、自分達の興味関心の幅を広げたり、共通の課題として深めたりすることができた。その上でチームを作成した。



研究の実践 II

II チームで高めるテーマ研究

個々の興味関心をもとに6グループを作成（縦割り）研究した。

（コミュニケーションの指導方法）グループ

（スキルアップ授業等）グループ

（教師が知っておくべき、進路に必要なこと）グループ

（ICT機器を使用した活動支援）グループ

（医療的ケア・吸引の効率的な実施）グループ

（楽しい！不思議！音楽教材）グループ

テーマ

コミュニケーションの 指導方法について

本グループでは、「重度児童生徒のコミュニケーションの指導」と
「発声・発語を促す指導」の2つのグループに分けて研究を実施した。

重度児童生徒の コミュニケーションの指導

主題設定の理由

重度児童生徒の場合、わずかな動きはあるものの、反射的な動きなのか、意図的な動きなのかが区別がつかず、どう捉えてコミュニケーションの指導をしていけば良いのか難しい現状がある。そこで、各自で文献研究を行い、その結果や各自の経験を基に意見を出し合い、コミュニケーションの指導について考えていくこととした。



【実践①】(重度児童生徒G)

【文献研究から】

重度児童生徒にはスキンシップによるコミュニケーションが効果的。楽しい時間を過ごし、他者と関係性を深めることにつながる。

文献：「新・手の使い方の指導」
「子どもの意欲を引き出す
摂食嚥下指導」

日常的にはコミュニケーションは実は曖昧で分かりにくいことが多い。こちらが与えた刺激に対して力を入れた場合、刺激をやめる「嫌だったね」と共感するといった、相手の立場に立って理解して何かを返すこともコミュニケーション。

文献：広島県立福山特別支援学校
自立活動ガイドブック

動きがある重度の児童生徒であれば、動きを捉えて分析できるアプリがある。

iOAK

研修会より

「人とのやりとり」を重視し、「自尊心を尊重」しながら、「大人を含めた二項・三項関係（共同注意）」の形成を目指す。「できた」を共有・同じことを繰り返す・相手の反応を待ち、耳を傾ける・様々な人との交流などが指導のポイント！

【意見交換】

最重度の児童生徒の場合、表出や意思という点に着目しすぎると、指導が行き詰まる

動きが出ていたとしても、意図的なものであるとは中々判断できない

相手に向けて教師が声をかけたり、かかわりを持ったり、スキンシップをとったりすることだけでもコミュニケーション

栄養のための食事ではなく、コミュニケーションとしての食事という考え方

スイッチ教材や「Yes,No」、意図的な身体の動きだけがコミュニケーションの指導ではない

【まとめ】

・教師からの働きかけ中心のコミュニケーションで良い

・本人の意思や表出にこだわりすぎずに、楽しくやりとりしたり、共感的な声かけをしたりすることもコミュニケーション指導

・たくさんスキンシップをすることが大切

・味覚や嗅覚への刺激も有効。五感への働きかけが効果的ではないか

発声・発語を促す指導

主題設定の理由

本グループは、コミュニケーション指導における発声・発語の促し方をテーマとし、5名の実践を基に検討する。発声・発語の改善は短期間での変容が得られにくいことを踏まえ、各自が担当する児童生徒に対して継続的に指導支援を行う。その過程で生じる指導上の課題や手立て、方針に関する**困難さを共有**し、相互に話し合うことで**多方面から見取り、支援の妥当性を高め、指導力の向上**を図ることとした。



【実践】(発声・発語G)

① 発声練習を通じた内言語へのアプローチ

- ・舌の体操や母音化による発音練習を継続
- ・発音困難の背景として内言語の弱さに着目

② ことばと行動のマッチングによる内言語形成

- ・物・動作・ジェスチャーと言葉を結びつけた指導
- ・意味理解を深め、コミュニケーション意欲を高める

③ 身体の緊張調整を取り入れた発声支援

- ・口形模倣や歌、リラックス姿勢での発声活動
- ・呼気・姿勢への配慮により意図的発声を促す

④ 言語化と見通しによる気持ちの調整

- ・不安や成功体験を言葉と文字で振り返る
- ・見通しをもたせ、安定したやりとりを支援

⑤ 代替コミュニケーションを用いた意思表出支援

- ・写真カード・具体物を使った選択による意思表出
- ・発声指導と並行し、伝わる経験を積み重ねる

発声・発語の獲得段階に応じ、内言語・身体・情緒・代替手段から多面的にアプローチをした

まとめ

【重度児童生徒のコミュニケーション指導G】重度児童生徒のコミュニケーションの指導としては、本人の意思や表出にこだわり過ぎずに、**教師が働きかけ続けたり、スキンシップをとりながら、共感的に理解して反応を返していく**ことが大切であることがわかった。課題としては、こういったコミュニケーションの指導をどう評価していくかということである。

【発声・発語を促す指導G】**実践の共有と協議を通して、各児童生徒の実態に応じた手立ての工夫や環境調整の始点が明確となり、指導者間で有効な支援の共通理解を図ることができた。**発声・発語の変容は短期的に評価するのが難しい点が課題である。同様のグループで指導を振り返る場を今後も継続していくことで、多角的・長期的にみとって支援・指導の妥当性を高めていく必要がある。

テーマ

「スキルアップ授業等」



1 主題設定の理由

- 学習指導や学習評価など、子ども達の日々の指導を行っていくことや特別支援学校に求められるセンター的機能を果たしていくためには、「教師力のスキルアップ」が必要であると考え、この主題を設定した。
- 本グループでは、各メンバーのやりたい分野を「授業のアイデア」「子どもの見方捉え方」「教育相談」の3つに分けて研究を実施した。
- 「授業のアイデア」は各教師の事例研究ではなく、授業を組み立てる際に、どんなツールを使ったのかに焦点をあてて行った。

2 実践・考察①

(各教科授業実践「国語・社会・体育・美術」)

・生成AIを使用した授業アイデアのでの実践、検討(国・社・体)

「☆クリスマス☆について」

知: クリスマスについて知ることができる。
 思: 今までの生活や経験を振り返りながら、発声や表情、指さしなどでクリスマスについて正しいものを選択することができる。
 学: 様々な活動を楽しみながら意欲的に学習しようとしている。

「クリスマスの歌といえば…」

うた

きよしこのよる

どうの意味?
 歌詞を分かりやすく画像で生成して!



【結果】なんとなく分かった人もいた!!!


「サッカーについて」

生成AIに相談しながら授業の計画を考えていく。
 ・児童・教員数(曜日によって教員が1減の日がある…等)
 ・児童の実態(立位可能か、教師の支えなどの程度が必要…等)
 ・自分の中のイメージ(個人練習→友達とのパス→全員でパスしてゴール…等)
 について会話をした上で、全体の計画についてChatGPTに相談した。

◆ 5 全体計画 (8時間)

時	学習内容	ねらい	指導のポイント
1	ボールに慣れる(触る・蹴がず・座位でのキック)	ボールに慣れし、安全な扱いを知る	座位中心。ステーション方式で興味を高める
2	近距離シュート(個人)	ねらって蹴る経験を積む	大きなゴール・近距離で成功体験を促す
3	シュートのバリエーション	距離・方向を意識する	目標ゾーンで方向意識。蹴り方・動作を入れる
4	友達とパス(立つ2人・座る2人)	友達と関わる楽しさ	同時立つ人数を限定し安全確保。交代制
5	小グループパスつなぎ→シュート	順番を意識し、協力する経験	立位・座位を組み合わせて負担軽減
6	ミニゲームミニ(2対2、後取制)	役割をもつ参加する	キック→ゴール/ゴール無効等、参加方法を促す
7	みんなで作れんぞ(全員でパスつなぎ)	協力して連携する喜びを味わう	指導カード使用。成功しやすい設定
8	発表会・まとめ	単元の成果を振り返る	パス→シュートの1連動作を順番にさせる。振り返りシート

提案してくれたものを参考に、計5時間(授業委員等のため)で授業を行った。



「サッカーについて」

いろいろ提案してくれるが、イメージしていることとちよと違う、これは難しいということも多かった。そんな時は「一と考えているんだけど、どうしてと聞くようにした。」
 →基本的には「いいですね!」「あなたの案もすごくいいです!」肯定してくれ、さらにこうするといいですよ、とアドバイスをくれたりして考えてくれたりした。注意点やその改善方法も教えてくれたりして利用するにはとても便利だが、子供の案も知っていて案をすることは教師ならではの工夫を加えながら使っていくべき。

・ Copilotを使用して学習の手立て(教材案やアプローチ案など)やを相談、視覚的に分かりやすいような画像の生成など。
 ・ ChatGPTを使用して授業の全体計画の相談など。
※ポイントはプロンプトは具体的に入力。


＜保育書・雑誌＞

インターネットなどの情報も役に立ちますが、保育書や雑誌などのアイデアも探しやすいので、題材探しに役立ちました。



＜教科書・雑誌＞

日本文教出版>
 授業のアイデア探しの為に、参考にしました。
 などなど
 (まだまだあります。)



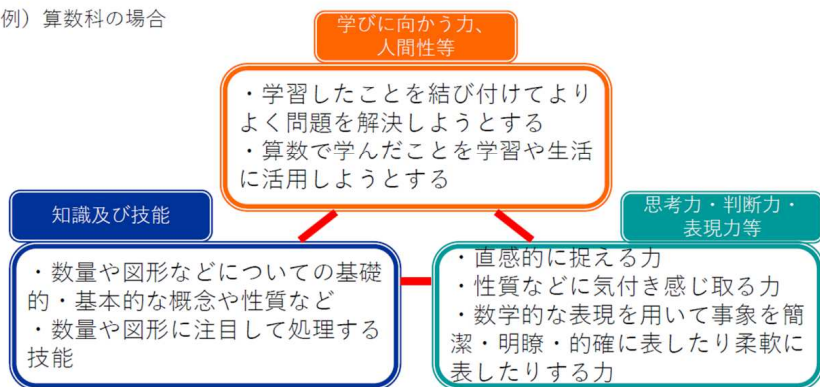
2 実践・考察②(子どもの見方捉え方)

3観点って難しくないですか。
何がどう当てはまるのか、わかりにくいくないですか？

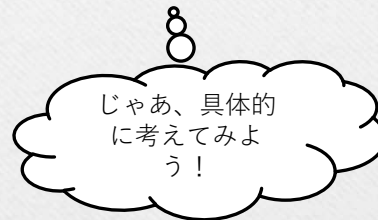
およそこんな風にとらえるとわかりやすい？

特別支援学校(知的障害)各教科の目標・内容

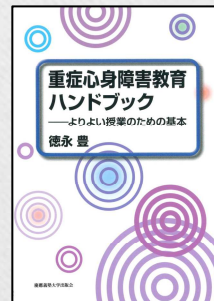
例) 算数科の場合



と、言われても…



この本が参考になりました(具体例が多い)



どんなふうに取り組み学んだことで生活がどう豊かになるか

[学びに向かう力・人間性等]

- ・こつこつお小遣いを貯める
- ・食べる人数でお金を集める
- ・ケーキ屋までの経路を調べ、買いに行く
- 粘り強く取り組み、実現する

単元

「ホールケーキが食べたい」

[知識及び技能]

- ・ケーキの価格を知る
- ・割り算の計算ができる
- 買うための情報を知っている

[思考力・判断力・表現力等]

- ・お小遣い何日で稼げるか考える
- ・売っている店を調べる、割引の日を探す
- ・ホールケーキを何人で分けるか考える
- 費用を稼ぐ方法を考え・工夫する

何を知っている
何ができる

理解している
・できることを
どう使う

2 実践・考察③(教育相談)

特別支援教育コーディネーターのためのブリーフセラピー教育相談 ～「解決」に焦点を当て、学校・家庭・子供たちの力を引き出す～

○設定理由…

- ・地域支援係になり、校内外の教育相談に携わる中で、自身の知識のなさを痛感💧
- ・相談して下さった方の力になりたい!
- ・コーディネーターとして教育相談やカウンセリングのスキルを身につけたい。

○方法…

特別支援教育コーディネーターとして経験のある先輩に相談したところ、以前私自身が総合教育センターで受講した研修「ブリーフセラピー」の手法も教育相談に活用できることを助言していただいたため、ブリーフセラピーを活用することの利点について、またどのように活用していけば良いかを文献を通して調べた。



○ブリーフセラピーとは…

- ・正式名称は「解決志向ブリーフセラピー」。
- ・問題よりも、人々のもつ肯定的な側面に焦点を当てて、そうなりたい自分(解決した先の姿)を実現させていくもの。
- ・誰にでも取り組みやすく、安全性が高い。
- ・困難や障害を抱えている人や子供、健康でより良くなりたい人、集団や組織にも活用できる方法。

ブリーフセラピーの視点:何が変わるのか?

原因を追究しない

過去の経緯や「なぜできないか」ではなく、「どうなりたいか」という未来の解決像に焦点を当てる。診断名よりも、望ましい状態を優先する。

目標の具体化

「落ち着きがない」といった抽象的な悩みを、「授業中10分間座ってられる」のような具体的で測定可能な行動目標に変換する。

例外の発見

問題が起こっていない時(例外)を探し、その行動を意図的に増やすことで解決を図ります。

ブリーフセラピーの核となる技法

ミラクル・クエスチョン

「もし奇跡が起きて問題が解決したら、明日の朝、何が変わっていますか？」

効果: 目標達成後の具体的なイメージを引き出し、相談者が最初に取り組むべき「小さな一歩」を発見する。

スケーリング・クエスチョン

「最良の状態を10、最悪を0とすると、今はいくつ? | ポイント上げるには何をしますか?」

効果: 主観的な変化を数値化し、わずかな進歩(例外)を可視化する。次の具体的な行動目標を設定しやすくする。

コーディネーターの介入ステップ



まとめ:解決志向の教育相談

〈導入のメリット〉

- 相談時間の短縮: 原因分析に時間をかけず、解決に集中するため、多忙な現場で効率的である。
- 自己効力感の向上: 成功体験に注目することで、先生や保護者の自信を回復させる。
- 協働的な関係構築: 「ダメ出し」ではなく「変化の承認」で前向きな関係を築く。

3 成果と課題~どっちもいいよ~

AI

- アイデアブック
- 時短
- アイデアを目に見える形にしてくれる。
- 身近な相談相手
- 何を聞いても怒らない
- だけど、そのまま使えるとは限らない。
- 取捨選択や教師のスキルが必要。
- 種類もいろいろ

本 & 研修

- 開けば使える。
- Wifi要らず。地下でも使える。電波関係ない。
- 情報が精査されている。
- 振り返りがしやすい。
- だけど、具体物が必要。情報に巡り合うのが大変。

実態やねらい、評価に関する見方・考え方も授業を考えるうえでおおきな支えになる

テーマ

教師が知っておくべき、
進路に必要なこと

1 主題設定の理由

卒業後の進路を考えるとき

- ・教員が進路に関する福祉制度や情報を知らないまま指導している部分がある。
- ・進路指導の流れが個々で違うため、進め方が分からない部分がある。
- ・医療的ケアの対応や入浴ができる事業所など、担当している生徒のニーズに合った進路先はどこがあるのか。

上記のような悩みから今回の研究では、教師自身が今できることとして、進路に係る福祉制度や進路指導の流れについて情報を共有し、進路指導に関する理解を深めていこうと考えた。

2 グループでの取り組み

福祉制度について（進路に関わる障害福祉サービスの利用）

在学中に利用することが多い障害福祉サービス

放課後等デイサービス 日中一時支援 短期入所

放課後等デイサービス……就学中の障害児に対して、放課後や夏休み等の長期休暇中において、**生活能力向上のための訓練等を継続的に提供します**。利用できる対象は、受給者証をもった6～18歳の就学児童です。

日中一時支援……一時的に子どもを預かることで、**保護者の時間を確保したり、精神的な余裕を取り戻したりすることが主な目的です**。施設によって年齢制限を設けているところもあるが、1～64歳までの人が利用できます。

短期入所……自宅で介護をする人が病気などの場合、**短期間、夜間も含めて施設で、入浴、排せつ、食事の介護等を行います**。短期入所も他のサービス同様、個々の状況に応じ、利用可能日数が決められます。通常5～6日／月の支給決定となりますが、個々の状況で必要日数や支給日数は異なります。

計画相談……前頁のような「障害福祉サービス」を使いたい時に必要となります。

例えば、放課後等デイサービスを利用したい場合、計画相談員に相談をし、利用計画書の作成をお願いします。その計画書を元に各市町村からの支給が決定します。計画相談のあてがない時には、各市町村の障害福祉課もしくは基幹相談にその旨を相談し、計画相談の事業所を紹介してもらい、必要に応じて契約をすることになります。これらの手続きは、基本的に保護者が行うこととなります。

※その他の障害福祉制度や各事業所情報など、知っておくと便利だなといったことが、**山梨県公式ホームページ「障害者福祉サービスのご案内」**に冊子となって載っています。



高等部で行われる進路決定に関わる取り組みの流れ

1年生

5月頃
校内実習
9月頃
現場実習（1回目）

2年生

5月頃
現場実習（2回目）
9月頃
現場実習（3回目）

3年生

5月頃
現場実習（4回目）
9月頃
現場実習（5回目）
障害区分認定調査
移行支援会議

高等部卒業後の進路について

高等部卒業後の生活

①進学

②一般就労

福祉サービス利用
③就労移行支援
④就労継続支援A型
⑤就労継続支援B型
⑥生活介護
⑦自立訓練

⑧施設入所支援

⑨療養介護

本校高等部卒業生の進路状況（H26～R6年度）

①進学

日本福祉大学通信教育部

②一般就労

(株)メディアブレイン、南アルプス市役所、韮崎市立病院、韮崎市役所、市川三郷町役場、国立病院機構甲府病院、韮崎市立大村記念図書館

③就労移行支援

あさひワークホーム、ジットたいよう

⑤就労継続支援B型

ジットたいよう、スマイルファクトリー、どんぐりの家、フレンズ、パル実郷、あさひワークホーム

⑥生活介護

なのはな、コスモス通所、みらいコンパニー、ともろうらんど、WaiWai、ワークハウスみどりの家おひさま

みだい寮、のはら楽団、きぼうの家、国立病院機構甲府病院「ひだまり」、甲斐かおりの家、あおば白根、ひびき

あけぼの医療福祉センター「チェンバロ」、介護のぞうさん

⑧施設入所支援

コスモス

⑨療養介護

あけぼの医療福祉センター、国立病院機構甲府病院

進路決定までの流れ 事例1 (一般就労)

居住地:(甲府市) 進路先 一般企業(甲府市)

1 年生

I 期: 校内実習 (封筒の封入作業等)
II 期: B型事業所、就労移行支援事業所

2 年生

I 期: 就労移行支援事業所、一般企業
II 期: 就労移行支援事業所、一般企業

3 年生

I 期: 一般企業 2 社 (就労希望企業)
II 期: 一般企業 (就労希望企業)
I 期現場実習終了後、ハローワーク 韮崎において求職者登録。
II 期現場実習終了後、実習を行った一般企業より個人あてに求人を出してもらい、ハローワークで手続きを行う。
すみよし障がい者就業・生活支援センター (ナカポツ) に登録
1 2 月に入社試験実施
2 月に 1 週間事前研修を実施

進路決定において大切にしたこと

- ・ 本人の意向 (PC関係の仕事をしたい) ・ 働き続ける意思があるか。 ・ 進路先の施設が実態に合っているか。
- ・ 通勤が可能か。 ・ やむを得ず出勤できないときの対応。 (テレワーク可)
- ・ 会社の雰囲気 (相談しやすい雰囲気があるか)

3 成果と課題

成果

- 複数の事例を挙げて進路の流れを確認したことで、一般就労と生活介護など、選択する進路によって関係機関や進路決定までの手順が変わってくることを共有することができた。（今回の掲載は一事例のみ）
- 進路に関わる情報や資料は、進路指導部の中に多くあることが分かったので、有効活用できると良い。



課題

- 大まかな進路の流れは確認できたが、一人ひとりのニーズが違うので、教師側が対応できるように知識を身に付けていかなければいけない。
- 学部によって進路に関する取り組み意識が違うことが多い。高等部の担任など、当事者にならないと進路先について考えたり調べたりすることが少ない現状があるので、どのように意識を変えていくのかが課題となる。

テーマ

ICT機器を使用した活動支援

1 主題設定の理由

近年、生成AIをはじめとするICT機器の活用が教育現場で進む中、特別支援教育においてもICTを生かした支援の在り方が求められている。本校は全国的にも視線入力装置の導入が進んでいるものの、導入した教員以外では活用が十分に広がっておらず、機器の設定や使用方法、授業への取り入れ方に不安や戸惑いを感じる教員が多い現状がある。

また、重度の障害により表出が少ない児童生徒においては、見る力や追視・注視、興味・感情の動きなどが把握しにくく、学習の可能性やコミュニケーションの糸口を捉えることが難しい。

そこで本研究では、視線入力装置やスマートウォッチを活用し、生徒の視線行動や心拍数・ストレス値といった客観的な指標をもとに実態把握を行い、活動参加の促進や潜在的な力の可視化を図るとともに、教員がICT機器を学び合い、実践を共有することで校内での活用の定着をめざす。その結果、生徒理解の深化とより適切な活動支援につなげていくことを目的として、「ICT機器を使用した活動支援」を主題に設定した。

2 実践・考察(1)

本研究チームは、スマートウォッチを使用したグループと、視線入力装置を使用したグループの2グループで実践及び考察を行う。

【スマートウォッチG】

<目的>

・山梨大学工学部 教授 小谷信司 先生との共同研究で使用している「スマート ウォッチ」(Amazfit Bip 5)を用いて、心拍数・血中酸素濃度を計測しそれに基づいてスマートフォンのアルゴリズムに従いストレスを算出する機器を用い、表出の少ない児童生徒に対する活動や授業参加の促進、潜在的な能力の可視化について考察する。

<方法>

・対象児童生徒にスマートウォッチを装着してもらい、登校時、昼食前、下校前それぞれ計測、ストレスなどのデータを取得する。
・記録したデータをもとに、その時のストレス度(緊張度合い)を計測する。
・普段との様子を比較しどのような時に緊張状態になって活動に適しているかを考察する。



装着の様子



モニターとスマートウォッチの計測値
おおむね同様の数値

【スマートウォッチG】

<考察>

- ・心拍数とストレス（緊張）との関連性がほとんどみられない児童生徒も見受けられた。一方で表出の少ない子供では統計的に一定の関連性が出ていることがうかがえる。
- ・表出の少ない児童生徒について、学習としての刺激を期待をする場合において心拍数を指標にしながら学習活動することで、よりよい学習より良い学習活動への手立てとするとよいことが確認できた。
- ・本人の過度なストレス（緊張）にならないようにしながら、ある程度の心拍数を指標にしながら本人の活性状況を把握することも可能である。

<課題>

- ・今回の研究は半年という期間での結果を提示していることもあり、サンプル数がとても少なく、雑駁な傾向をまとめたものであるため、長期間における研究を行い、その傾向をまとめることでより精度の高い研究結果が得られ、ある程度時間をかけての検証が必要である。

【視線入力装置G】

<成果>

- ・視線入力装置（トビー）の基本的な使用方法を再確認するとともに、視線を可視化できるアプリの存在や活用方法について理解を深めることができた。
- ・実践シートを記入・活用することで、児童生徒の視線行動をデータとして捉え、これまで主観的になりがちであった実態を客観的に把握することができた。
- ・実践シートの内容と日常生活や授業中の様子を照らし合わせることで、児童生徒の見る力や反応の特徴を捉える一つの有効な手段となることが分かった。

<課題>

- ・視線入力装置の活用が一部の教員に限られている現状があり、校内全体へと広げていくための情報共有やアウトプットの機会を意図的に設ける必要がある。
- ・実践シートの内容について、より日常の支援や指導に結びつく形で活用できるように、記入項目や活用方法の検討が今後の課題である。
- ・視線入力装置やアプリを継続的に活用し、児童生徒の変化を長期的に捉えていく視点が求められる。

テーマ

医療的ケア「吸引」を効果的に実施するために



1 主題設定の理由

- ▶ 本研究の対象生徒は、常時酸素を使用し気管切開部にオキシベントを装着している。自力排痰は可能であるが、オキシベントの隙間から痰が漏れ出るほど痰の量が多く、日によって状態が大きく変動する。現在はSpO₂値、呼吸音、表情等から判断して適宜吸引を行っているが、上気道まで痰が上がらず、吸引できないことや吸引の刺激による嘔吐の誘発が課題となっている。
- ▶ そこで本研究では、10月から12月にかけての吸引記録（日時、SpO₂、姿勢、痰の性状、吸引前の状態、気温等）を分析・可視化し、吸引の最適なタイミングや条件を明らかにする。これにより、身体的負担を軽減し、対象生徒の安全かつ安心な学校生活の実現を目指す。

2-1 実践・考察

- ▶ オムツ交換後に仰臥位から座位に起き上がり、いざり移動の全身運動後、床に両手をついて背中をさすることで、多量の自力排痰につながるが多かった。
- ▶ 一方で、いざり移動の全身運動後はSpO₂が85程度まで低下することも多く、本人の様子をよく観察して、距離を設定することも必要とわかった。
- ▶ 12月以降時折、血性痰が見られるようになったので、季節によって加湿の必要性が伺えた。
- ▶ 10月から12月にかけて気温及び湿度が少しずつ低下し、吸引をしなかった日数が10月は7日、11月は5日、12月は3日と減少傾向にあり、気温及び湿度と吸引の相関関係が伺えた。
- ▶ 12月4日（木）の部活動では、吸引を4回行った。1日の授業終了後であったことや、吸引前および吸引中の教員の対応がいつもと異なっていたことなどの影響が伺えた。

2-2 実践・考察

▶ 吸引によるSpO₂の変化

吸引前は80%台まで低下することが頻繁にあるが、吸引及び必要に応じて酸素流量を上げることで、SpO₂は90%以上に回復した。

▶ 痰の性質の傾向

粘度は記録の90%以上が「強」、量は「多量」から「普通」が中心。色は基本「普通（無色透明）」だが、時折「黄色」が見られた。

▶ 姿勢変換の有効性

車椅子から仰臥位や少し左向きの仰臥位から右側臥位、仰臥位から自力での座位、いざり移動等体位ドレナージや全身運動後は自力排痰できることが多かった。また、不十分な時は吸引を併用することで、多量の排痰ができ、SpO₂が90%台に回復した。

3 成果と課題

- ▶ 腹臥位や体位ドレナージ、仰臥位から座位に起き上がったり、いざり移動をしたりする全身運動、加湿、呼吸介助を伴う換気の促進を行うことで自力排痰につながり、合わせて吸引することで粘度の強い痰を効率的に移動させ、排出できることがわかった。
- ▶ 吸引はSpO₂の低下、貯留性の喘鳴、胸の振動音、表情、唾液の貯留状況を確認めて、自力排痰では難しいこともあるので併用するとよいとわかった。
- ▶ 今回体位ドレナージや全身運動後の自力排痰と吸引の相乗効果を得られたが、体調変化時や乾燥時期等の季節によってどう変化するか、継続的なモニタリングが必要になる。
- ▶ 本研究では看護師に吸引を依頼し、痰の粘度が「強」、色が黄色や汚れている、量が多いなどの情報を聞き取り、可能な範囲で体位ドレナージやいざり移動を取り入れることで、自力での排痰や効率的な吸引につながることをわかった。
- ▶ 普段から生徒をよく観察し、看護師と教員が適切に連携することで、医療的ケア「吸引」を実施しているさまざまな生徒の身体的負担を軽減し、安心・安全な学校生活の実現につながると考えられる。



テーマ

「たのしい！ふしぎ！みんなができる音楽教材」

「たのしい！ふしぎ！みんなができる音楽教材」

～研究設定の理由～

音楽＝音色と言っても過言ではない程、音楽にとって音色は大部分を占める情報です。世界中には数千種類の楽器が存在し、打楽器だけでも1100種類以上あると言われていますが、肢体不自由のある児童生徒たちが、正しい奏法で演奏できる楽器はとて少ないのが現実です。

そこで、実際にかかわっている児童生徒の実態や段階、身体の動き等に合わせて世界中探してもまだない自作の楽器を作ったらどうだろうか？という考えに行きつきました。

～研究の方法～

- ①対象児童生徒の実態や段階などを確認
- ②自作楽器創作
- ③授業での実践
- ④フィードバックと意見交換
- ⑤改善点を踏まえた授業実践
- ⑥考察とまとめ



参考にしました！

「たのしい！ふしぎ！みんなができる音楽教材」

※チームメンバーの手作り楽器を紹介します♪

～目次～

- ①「パイフホーン」
- ②「かっこう笛」
- ③「電動カバサ→ボトルカバサ」
- ④「サウンドフォレスト」
- ⑤「たまごパックチャイム」
- ⑥「五感で感じるどんぐりマラカス」



「たのしい! ふしぎ! みんなができる音楽教材」

①「パイプホーン」



チューバは吹けないけど...
これなら吹ける!!



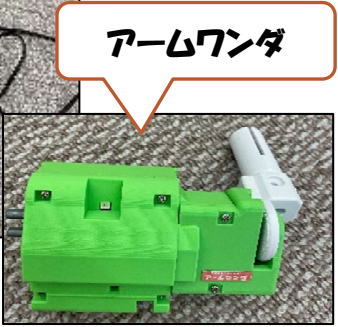
ぼ
ぼっぼっぼ
(低い音)

②「かっこう笛」



かっこう
かっこう
かっこう

③「電動カバサ」



アーレワンダ

動作開始位置、動作終了位置を設定できる。1回と連打を選択することができる

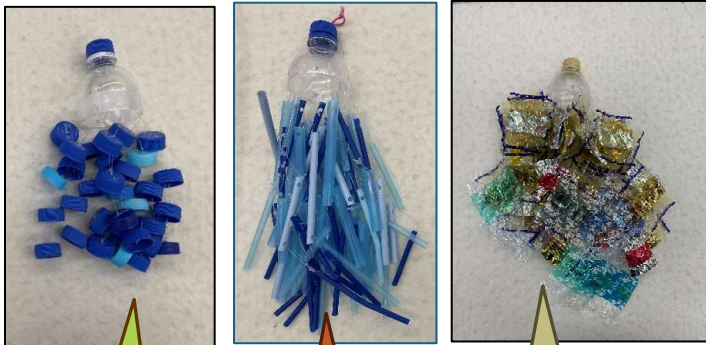


③「ボトルカバサ」

「たのしい!ふしぎ!みんなができる音楽教材」

④「サウンドフォレスト」

～吊り下げ楽器～



風で木が
揺れるような音

水、せせらぎのよ
うな音

葉っぱと葉っぱが重
なるような音

3つ合わせて森の音♪

⑤「たまごパックチャイム」



かさかさかさ
(かわいた音)

※材料や作り方を知りたい方は、
ぜひお問合せください☆

⑥「五感で感じる
とんぐいマラカス」

1人用マラカス



ガチャ
ガチャ

みんなでマラカス



ザ
ザ

「たのしい！ふしぎ！みんなができる音楽教材」

～まとめ～

- ・既成の楽器にはない新しい音が出せる。
- ・生活の中にあるもの(廃材など)で簡単に作ることができる。
(ペットボトル、ペットボトルキャップ、たまごパック、紙コップ、お菓子の包み紙etc.)
- ・單元の中に楽器作りを組み込むことで、興味関心を高めやすい。
- ・対象児童生徒の実態や身体の動きに合わせて作ることができるため、自分の力で鳴らすことができる。
- ・最低限の教員の支援で音が出せるため、達成感や充足感につながりやすい。
- ・演奏技術の必要な楽器は教員も含め演奏できないことが多いが、自作楽器はすぐ音が出せ、且つ興味を引く演奏ができる。
- ・出したい音に作り替えていくことができる。(PDCAに乗りやすい)

「たのしい！ふしぎ！みんなができる音楽教材」



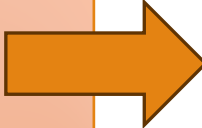
手作り楽器の可能性は無限大



教師の主体的な学びについて

アンケート結果より ・当初のアンケート

やりがい・満足度に関する項目

- 達成すること
 - 認められること
 - 仕事への興味
 - 自己成長
- 

研究の目的を達成できると思う
現在の研究はやりがいがある
自分の取り組みが子供のためになっていると感じる
自分の取り組みが学校のためになっていると感じる
学校の研究をやりたい
個人のやりたい研究である
研究におもしろさを感じる
自分の裁量で取り組める
成長が実感できる
スキル・能力が見につく研究である

教師の主体的な学びについて

アンケート結果より ● 思う ● やや思うの推移

- 思う
- やや思う
- どちらでもない
- あまり思わない
- 全く思わない

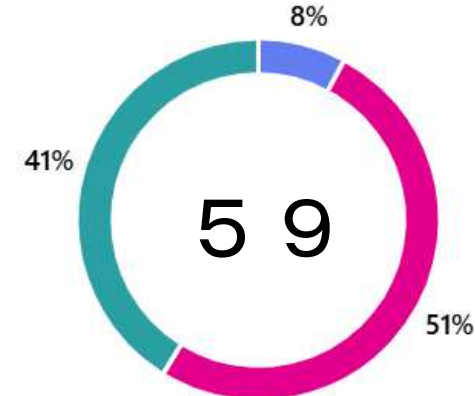
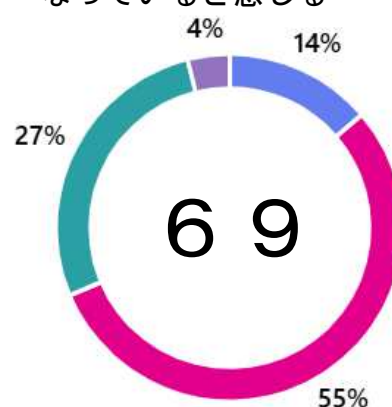
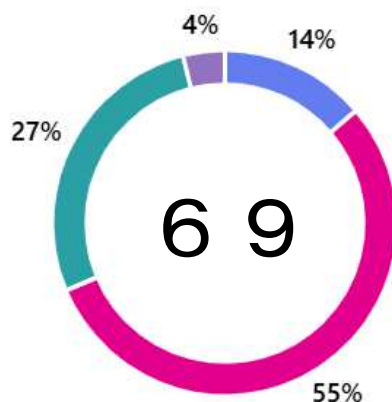
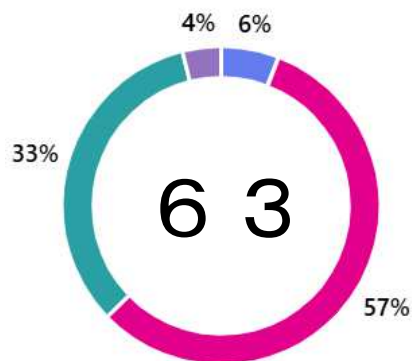
研究の目的を達成できると思う

現在の研究はやりがいがある

自分の取り組みが子供のためになっていると感じる

自分の取り組みが学校のためになっていると感じる

6月



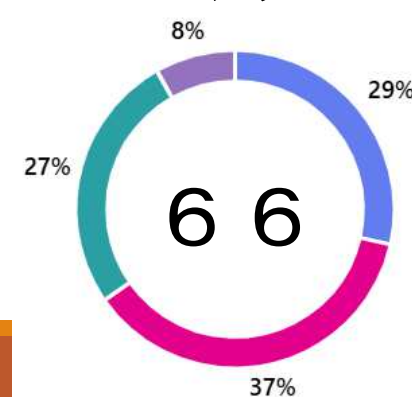
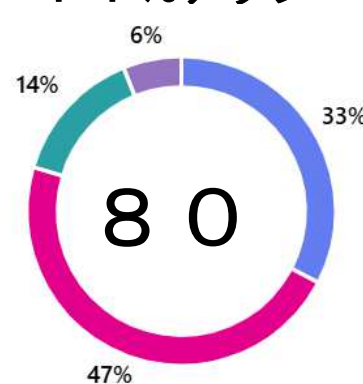
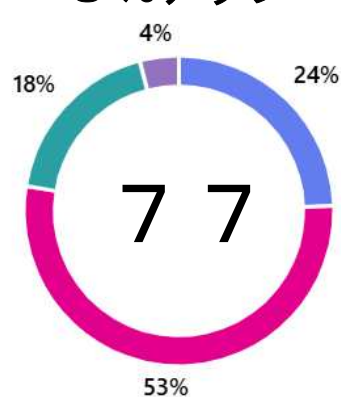
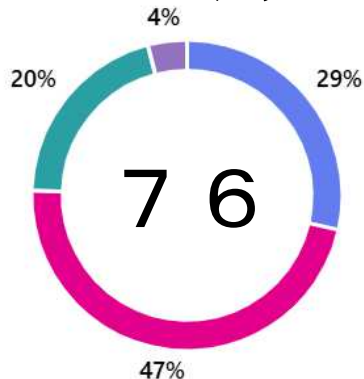
13%アップ

8%アップ

11%アップ

7%アップ

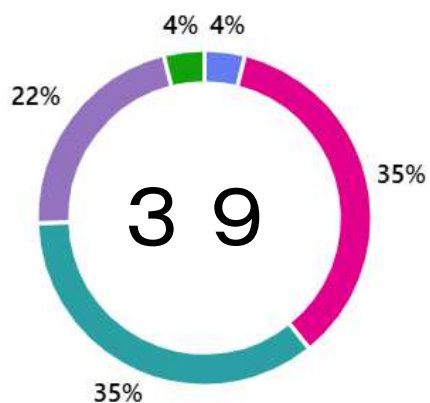
1月



教師の主体的な学びについて

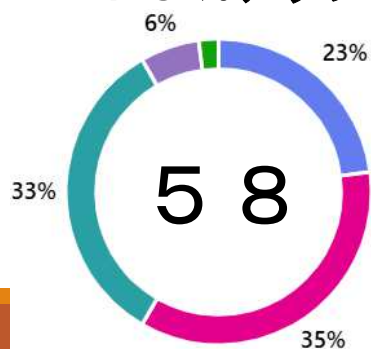
アンケート結果より ● 思う ● やや思うの推移

学校の研究をやりたい



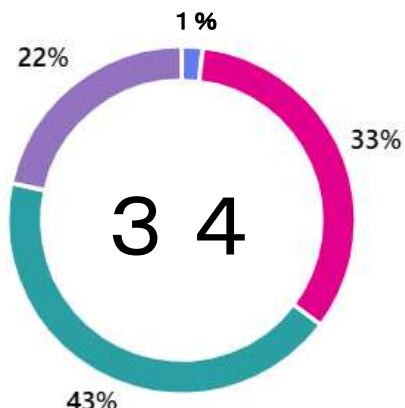
6月

19%アップ

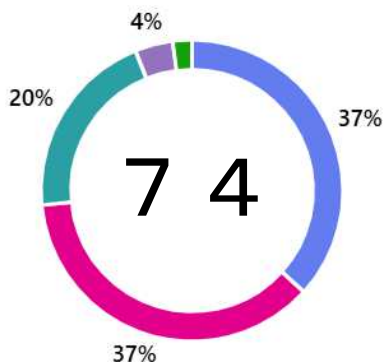


1月

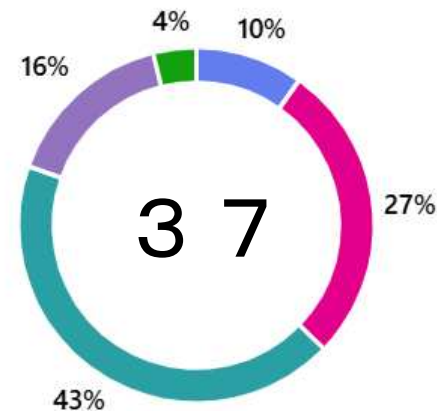
個人のやりたい研究である



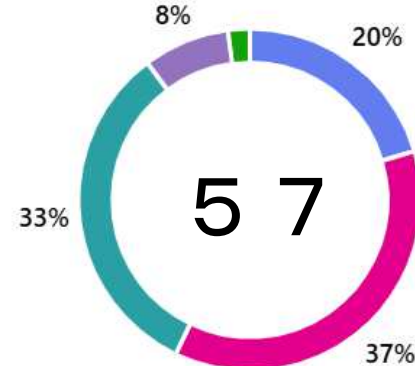
40%アップ



研究におもしろさを感じる

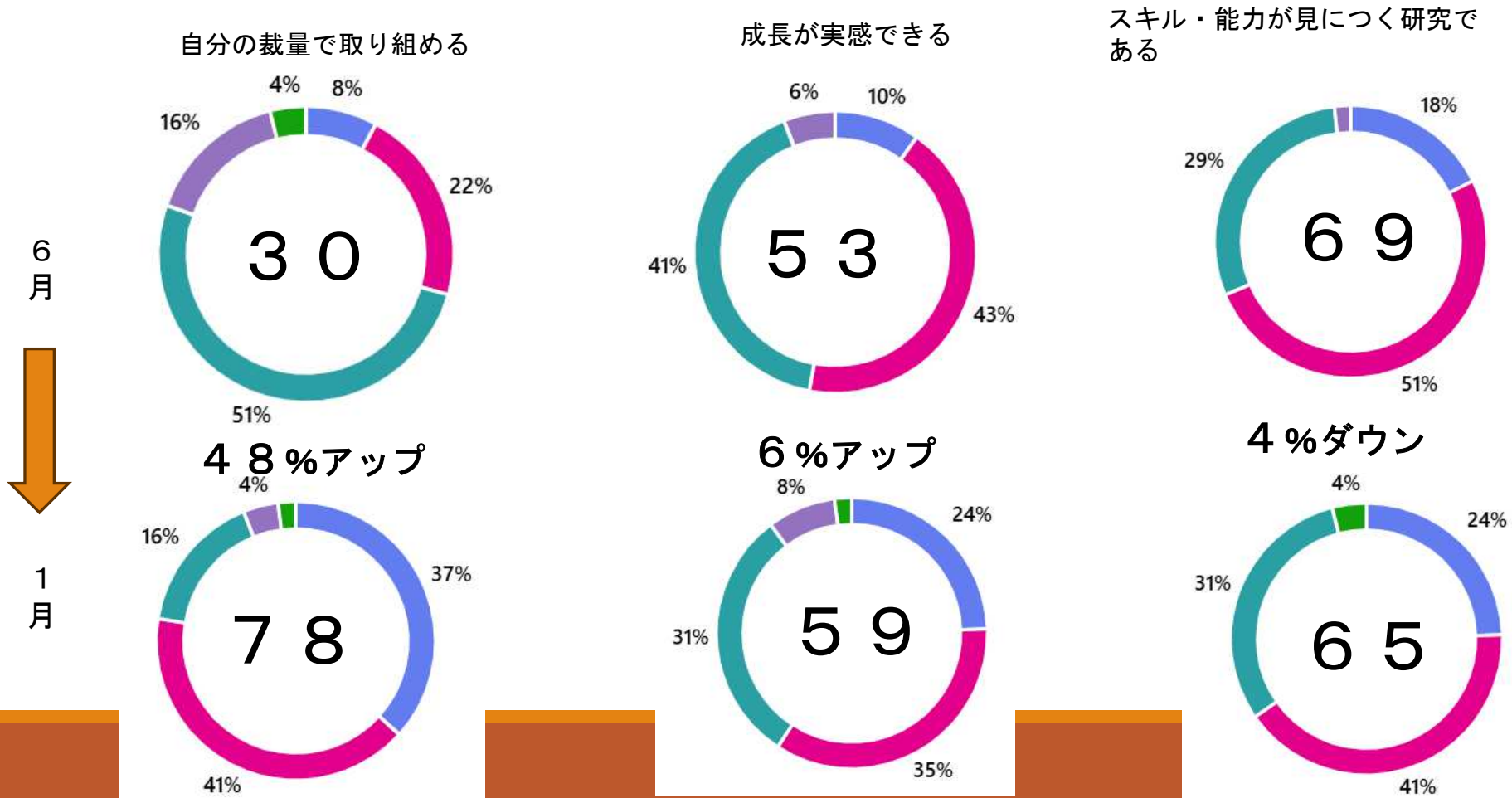


20%アップ



教師の主体的な学びについて

アンケート結果より ● 思う ● やや思うの推移



教師の主体的な学びについて

アンケート結果より

・当初と終わりの時期のアンケートの比較では、やりがい・満足度に関する項目について**全体的に向上が見られた。**

特に、『現在の研究はやりがいがある』『自分の取り組みが、子どものためになっていると感じる』の項目では、**8割の教師が肯定的に感じられるようになった。**

大きな上昇が見られた項目は、『学校の研究をやりたい。(2割上がり6割)』『個人のやりたい研究である。(4割上がり7割)』『研究におもしろさを感じる。(2割上がり6割)』『自分の裁量で取り組める。(5割上がり8割)』だった。**個々の学びをもとに取り組んだことが、達成することや仕事への興味や自己成長など教師の主体的な学びにつながったと考えられる。**

課題として、『スキル、能力が身につく研究である。』と思うのは1割増えたが、やや思うと合わせると変化がなく、個々の取り組みによるところが大きいことが伺える。

研究のまとめ

I 令和8年度の統一書式を活用するために

- ・ 来年度より山梨県で導入される個別の指導計画について、一人一人が実際に試行し、肢体不自由特別支援学校の特性に合わせて課題を探り、先進校の実践も学習しながら改善点を検討することができた。
- ・ 来年度から統一書式が導入されるに当たって、新書式に則った計画と評価を使いこなせるようにしていくとともに、今後は、過去の各教科、自立活動などの単元指導の実績を校内で積み重ねながら蓄積と整理をしていきたい。また、個別の指導計画と集団授業計画、自立活動の設定方法などがスムーズにつながるように検討していく。

研究のまとめ

Ⅱ チームで高めるテーマ研究

（コミュニケーションの指導方法）グループ 重度の児童生徒は反応の意図性が判断しにくく、コミュニケーション指導の進め方が教師の課題となっている。そこで文献研究や経験交流を行い、コミュニケーションの捉え方や指導の方向性を検討した。重度の児童生徒への指導では、意思表示にこだわり過ぎず、働きかけを継続しながら共感的に反応を返す姿勢が重要であることが確認された。一方で、そのようなコミュニケーション指導をどのように評価するかが課題として残った。発声・発語の指導では、共有と協議を通して手立てや環境調整の視点を明確にできたが、変化を短期で評価する難しさから、長期的な視点で振り返る必要性が示された。

（スキルアップ授業等）グループ 学習指導・学習評価やセンター的機能を果たすためには、教師のスキル向上が必要であると考え、本主題を設定した。研究グループでは、メンバーの関心に合わせ「授業のアイデア」「子どもの見方・捉え方」「教育相談」の3分野に分けて研究を進めた。「授業のアイデア」では、個々の事例ではなく、授業づくりで使用したツールに焦点を当てて検討した。AIと本&研修を活用し、授業の質向上につながる具体的な工夫や道具選定の視点が共有された。最終的に、教師力向上に向けた多角的な学びが促進されたことが確認された。

研究のまとめ

Ⅱ チームで高めるテーマ研究

（教師が知っておくべき、進路に必要なこと）グループ 福祉制度や進路指導の流れの理解が不十分で、生徒のニーズに合う進路先の情報も不足していた。その不安を解消するため、本研究では福祉制度の理解や進路指導の流れ、各事業所の情報等を教員間で共有し理解を深めることを目指した。複数事例の検討により、一般就労と生活介護等、進路先によって関係機関や会議の設定手順が異なることを確認した。進路指導部には豊富な資料が蓄積されていることが分かり、活用の重要性が認識された。情報整理と共有が、より適切で安心できる進路指導につながる事が明らかになった。

（ICT機器を使用した活動支援）グループ 特別支援教育でもICT活用が求められる中、本校では視線入力装置が十分に使われておらず、教員に操作や活用への不安がある。重度障害のある児童生徒は表出が少なく、感情や興味の把握が難しいという課題がある。そこで視線入力装置やスマートウォッチを用いて視線行動や心拍などの客観的データを収集し、実態把握と活動参加の促進を図った。また、教員同士がICT活用の方法を共有することで、校内でのICT活用の定着をめざした。その結果、ストレス値や視線行動の可視化、実践シートによるデータ整理が生徒理解に有効であることが確認された。

研究のまとめ

Ⅱ チームで高めるテーマ研究

（医療的ケア）グループ

重度重複障害の生徒の医療的ケア「吸引」を効果的に

実施できるために、吸引記録を分析・可視化して最適条件を検討した。体位ドレナージや全身運動、加湿、呼吸介助は自力排痰を促し、吸引と併用することで効率的な排出につながるということが分かった。吸引はSpO₂の低下や胸の振動音、唾液の貯留など複数の兆候を確認しながら行うことが重要である。体調変化や季節による影響が大きいいため、継続的なモニタリングが必要である。看護師と教員が連携して観察・対応することで、身体的負担を軽減し、安全・安心な学校生活の実現につながる。

（楽しい！不思議！音楽教材）グループ

肢体不自由のある児童生徒は扱え

る楽器が限られ、音楽の大きな要素である「音色」を十分に体験しにくいという課題がある。そのため、児童生徒の身体の動きや実態に合わせた自作楽器の可能性を検討した。自作楽器は廃材など身近な物で簡単に作れ、既成の楽器にはない新しい音を生み出すことができる。また、児童生徒自身の力で音を鳴らしやすく、達成感や興味関心の高まりにつながる。さらに、目的の音に合わせて改良し続けられるため、指導におけるPDCAを回しやすい利点もある。

研究のまとめ

Ⅱ チームで高めるテーマ研究

- ・自分達の「学びたい」を見つめ直すことで、教師自身が、テーマごとにチームで学び合い、主体的に教師力を高めることができた。
- ・例年学部ごとに取り組んでいたが、個人の興味関心をもとに縦割りに取り組むことで、小学部、中学部、高等部の基礎～卒業までの幅広い視点や多様な教師によるアイデア、同じ興味を持つ教師同士のモチベーションアップなどメリットが見られた。デメリットでは、現場実習や修学旅行など忙しい時期に日程を合わない場合が見られた。
- ・H31年より学習指導要領改訂に合わせて、自立活動について、教科学習についての研究を進め、校内の理解が高まった。そこで、今年度、教師の願いを主体に取り組む中で、子どもの学習指導において本校の教師で大切にしたい点等が浮かんできた。

今後の課題 I

- ・ 令和8年度より統一書式の試行が始まるので、必要に応じて、書式の理解と現在の指導計画とのスムーズな移行に取り組んでいきたい。
- ・ 単元計画の採用、評価規準など新しい形式への対応と肢体不自由のある児童生徒の指導として自立活動の校内での検討と共通認識を持って指導につなげていきたい。

今後の課題 II

- ・ 教師が主体的に取り組むことができたが、研究を2期に分けたため、十分に時間をとることができなかった。
- ・ 教師が主体性を持って研究に取り組めるように個々の希望をもとに、肢体不自由のある児童生徒の指導で大切にしたいことを明らかにして、取り組むことで、指導力の向上と肢体不自由の専門性を高めていけるとよい。
- ・ 縦割りのグループ設定の場合、研究日程を合わせることができるとよい。

今後の方向性

・児童生徒の主体的な学びを支えるために、指導力の向上と肢体不自由の専門性を高めることを教師の主体的な学びでつなげていきたい。



The diagram features a central illustration of two hands, one on the left and one on the right, with fingers spread, holding a red rectangular box. Below the hands is a large orange trapezoidal shape that tapers towards the top, resembling a funnel or a bridge. At the base of this shape is a wide orange rectangular box. Two green rectangular boxes are positioned on either side of the central orange shape, overlapping its edges. The text is distributed as follows: the red box at the top contains '児童生徒の主体的な学び'; the green box on the left contains '教師の指導力の向上'; the green box on the right contains '肢体不自由の専門性の向上'; and the wide orange box at the bottom contains '教師の主体的な学び'.

児童生徒の
主体的な学び

教師の指導力
の向上

肢体不自由の専門性
の向上

教師の主体的な学び